

躍進する

女性陣

松本産業

渋谷梨津子さん

「トラックに乗ることが、とにかく楽しい」。こう語るのは松本産業(松本成士社長、愛知県弥富市)の渋谷梨津子さん。19歳の頃から約4年間、事務員として仕事をしてきたが、昨年6月に念願のドライバーへと転向した。

「18歳で免許を取って、す

ぐに他社のトラックドライバーをしていた」というが、中型免許が新設された関係でトラックに乗れなくなってしまい、やむなく退社し同社に事務員として入社した。

「幼い頃から健康だけが取り柄でした」と話すように、持ち前の元氣に加え要領のよ

さから事務員としても仕事ぶりは際だち、「とにかく電話の対応が明るく丁寧なので、客受けが非常によかった」と松本社長も絶賛するほど。それだけにドライバーになりたいという申し出を受けたとき

には複雑な心境だったといふ。

また、当時は空きのトラックもなかった事情などを説明すると、「トラックに乗れる会社に行きます」と辞表を提出。決意の強さを知り、「ウチで仕事をしたいと言ってくれている人間を、こちらの都合で辞めさせるわけにはいかない」と、松本社長もトラックの増車を決断した。

そうした紆余曲折を経て、ついに念願のトラックドライバーとなった。やはり知らない土地に行ったり、様々な年代の人たちと話ができる環境は新鮮で、やりがいがあると話す。仕事をする上で常に意

識していることは、元氣にあいさつをすることと、トラックをピカピカにすることだといふ。また、現在は4ト平ボディに乗務しているが「どんなに忙しくてもシートはキレイに張るよう心がけている。そのためうまく人に教えてもらったりもしています」と、女性ならではのこだわりもあるようだ。

今年に入り、社内恋愛を実現させ結婚もするなど、公私ともに充実している。将来的には大型トラックに乗りたいという夢もあるが、「専業主婦として夫の仕事を側面から支えることも考えていきたいです」と笑顔で話す。(加藤 崇)

念願のトラックドライバーに

